

歴史的建造物を活用するインテリアエレメントの設計 —旧帝国ホテルのディテールを引用するデザインシステム—

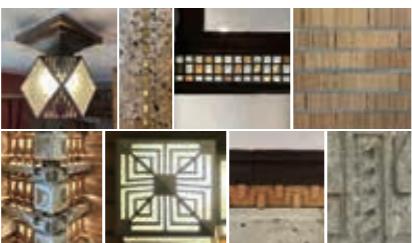
栃木女子大学 生活科学部 生活環境デザイン学科
インテリア・プロダクト分野専攻
准本研究室 A22AB002 青木千光



1. 共通ディテール、
共通モチーフの調査

2. 共通ディテール、
共通モチーフの選定

3. デザインへの引用



■デザインプロセス

本研究のデザインシステムでは、歴史的建造物に多用される共通ディテールや、繰り返しモチーフを調査し、その中で歴史的建造物を継承するために必要である、代表的なものを選定する。そしてそれらを家具や室内空間それぞれのデザインに引用し、空間全体に連続性を持たせることで設計を行う。

■趣旨と研究の背景

本研究は、歴史的建造物のディテールとモチーフを用いて空間を継承する、新しいデザインシステムの提案を行うものである。歴史的建造物は建物の保存はされていても、家具や室内空間の保存に至ることは少なく、空間に合わない既製品家具が設置されていたり、インテリアエレメントがなく、使用用途のない空間が展示されていたりすることがある。その一例として、博物館明治村にある旧帝国ホテルのスチール製椅子（写真1）と、使用用途のない空間（写真2）に問題提起をし、研究を進めることとした。

■研究の目的

本デザインシステムは、対象とする建物、空間を限定せず、広範囲に適用できることにより、本システムの有意性を明らかにすることを目的とした。

■研究①

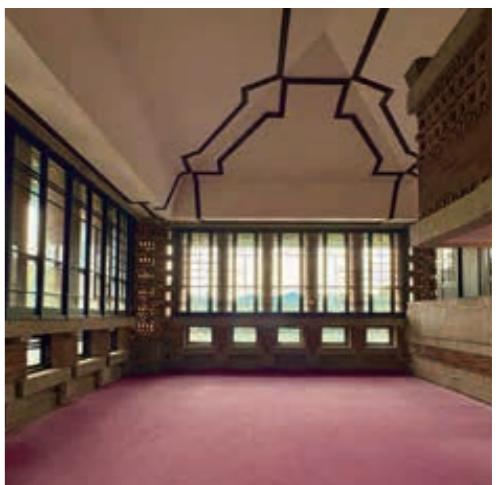
研究①では、喫茶の待合椅子として設置されているスチール製椅子（写真1）を、旧帝国ホテルのディテールとモチーフを継承する新しい椅子としてデザインを行う。原寸図を作成し、歴史的建造物のディテールとモチーフをディフォルメすることで正確かつ詳細に表現し、歴史的建造物の空間を継承するデザインを行う。



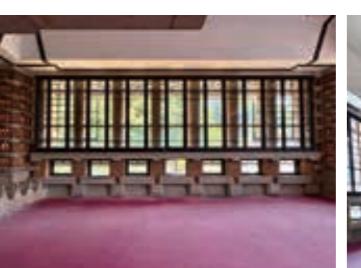
（写真1）喫茶待合椅子

■研究②

研究②では、現在使用用途のない空間（写真2）を活用するための、仮設空間設計を行う。該当の空間は喫茶に隣接しており、階段で繋がっている。そのため本研究では、研究①で設計した椅子を用い、該当の空間を隣接する喫茶の飲食スペースの延長として活用し、音楽等のミニコンサートの場としても使用できる仮設空間として設計を行う。本研究も研究①と同様の方法で、旧帝国ホテルのディテールとモチーフを継承するインテリアエレメントの設計を行う。



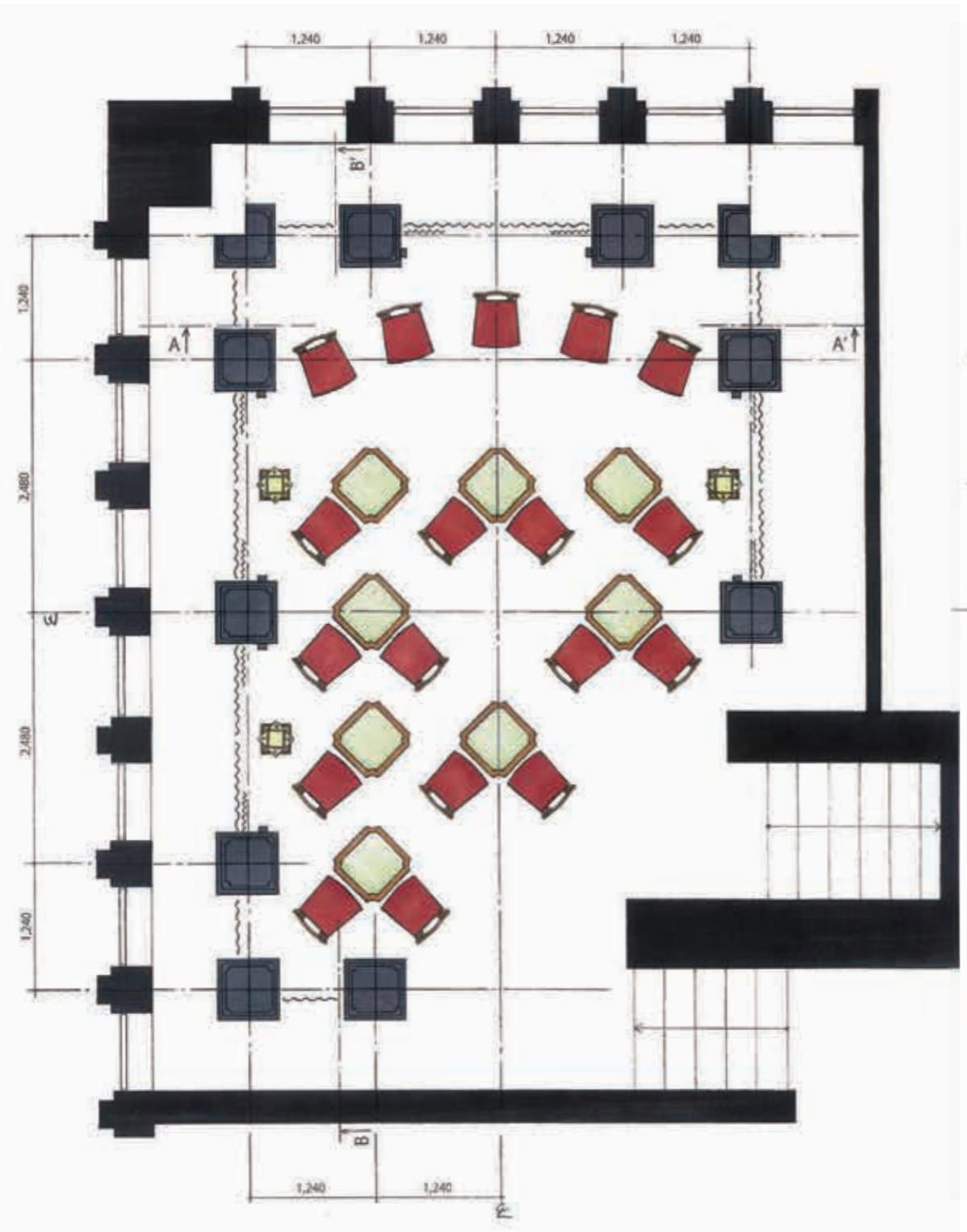
（写真2）使用用途のない空間



南面

西面

東面



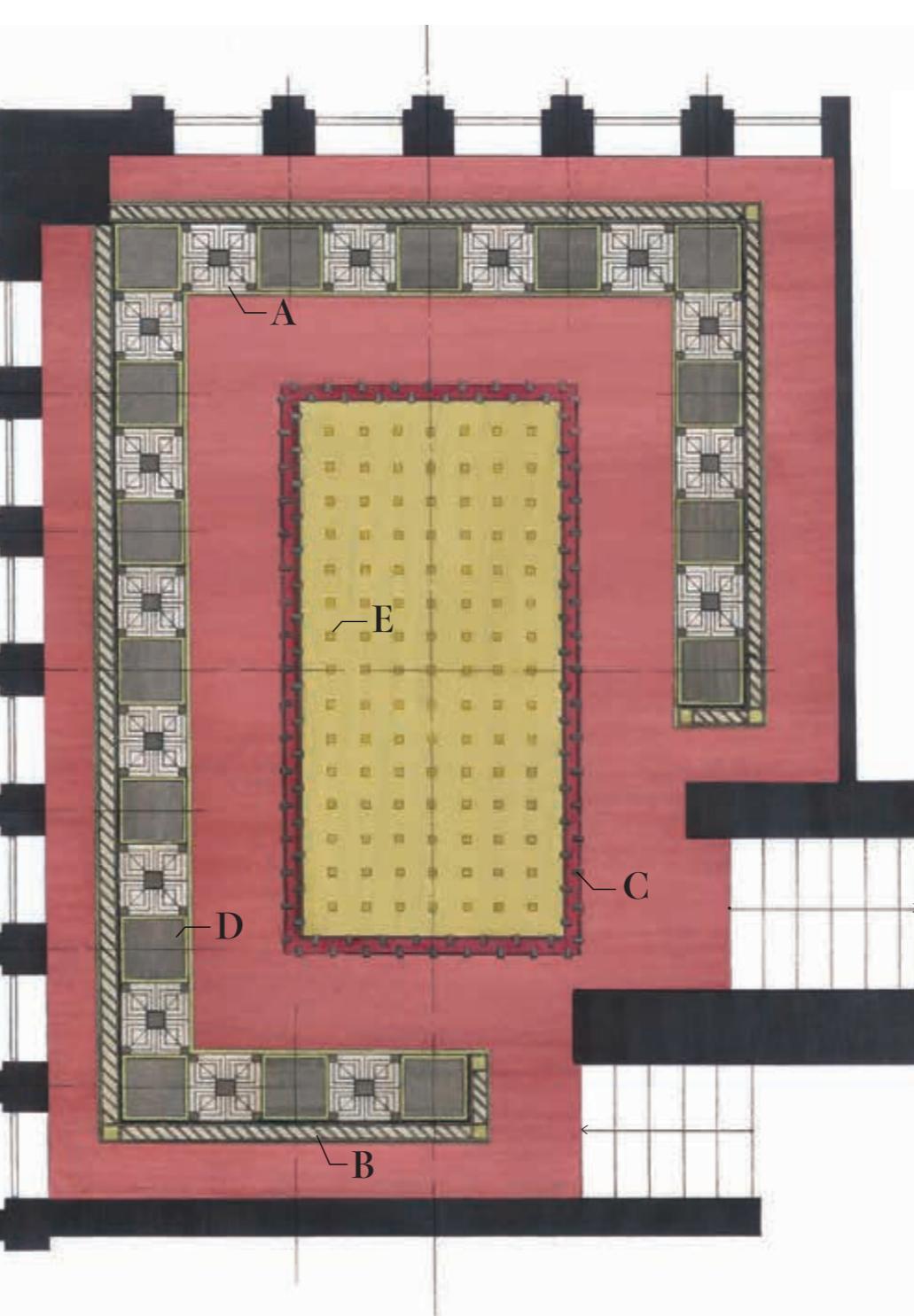
平面図 1:30

■ 平面計画

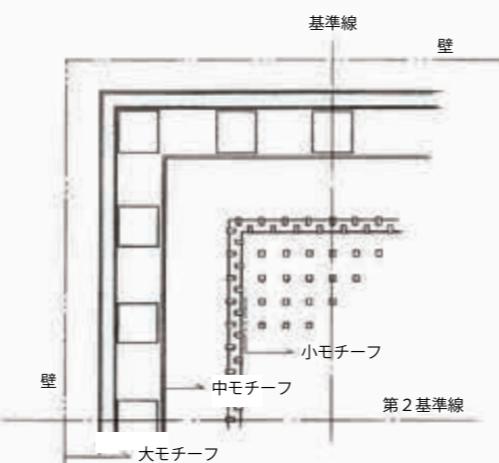
既存の柱モジュールを活かした柱配置とし、既存空間にはなかったカーテンで空間を仕切ることで、間仕切りの役割を果たすと同時に、外光をコントロールする空間とした。本平面計画では、北側奥のスペースでミニコンサート等を行うことを想定した家具配置とし、奥に視線を集めつつ喫茶と行き来しやすい動線を意識した。

■ カーペットデザイン

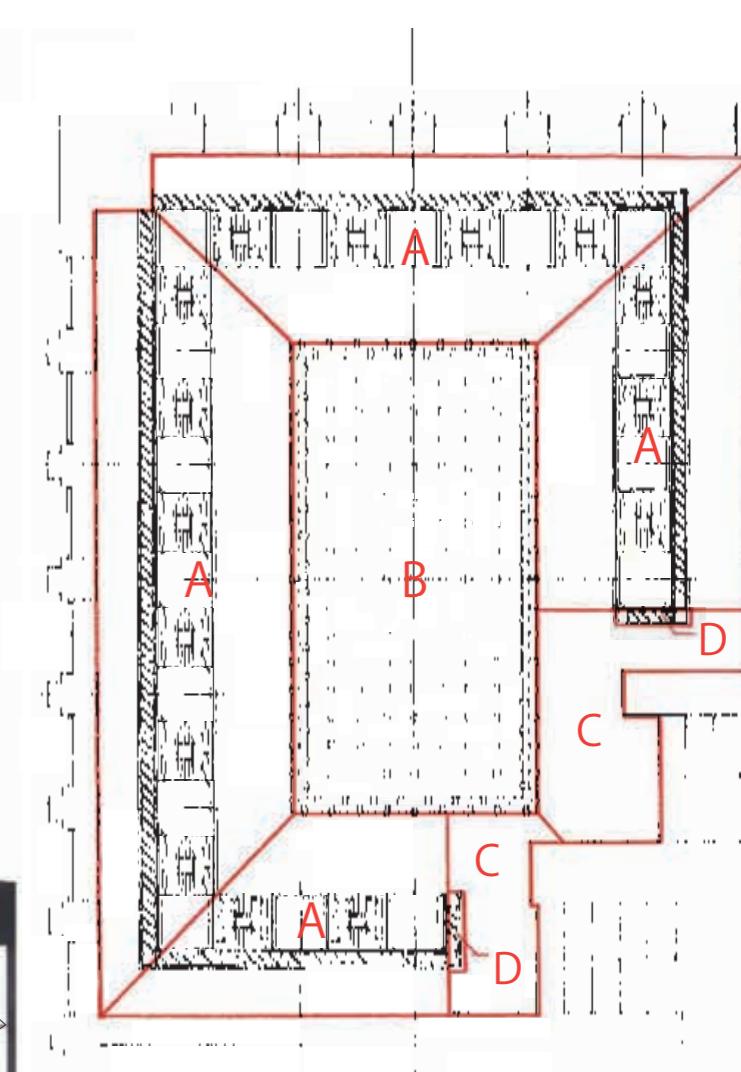
外側から中央にかけて、モチーフの大きいものから小さいものへと移っていくような規則性のあるデザインとした。外側の四角形のモチーフは、柱の設置位置を示す、床マーカーの役割を果たす配置とした。主要色を椅子の張地と同じ赤色とすることで統一感を出し、加えて旧帝国ホテルの中でもアクセントカラーとして用いられてきた金色を採用することで、旧帝国ホテルの雰囲気を継承するデザインとした。



カーペット図 1:30



カーペットデザイン概念図



■ ウィルトンカーペットの分割方法

織り機の幅に合わせてどの箇所を一度に織るのか、また同一のパターンで複数の箇所を織るための効率的な分割方法を考える必要がある。加えて本研究では、一度に織る色の数を四色とし、パターンに含まれる色数も考慮して分割を行った。

■ 使用した繰り返しモチーフ



■仕上げリスト

床：ウィルトンカーペット 10mm ウール 100%
(特注柄：旧帝国ホテルモチーフ)
アンダーフェルト 8mm

垂れ壁・造作材：ナラ材練付 UC 塗装

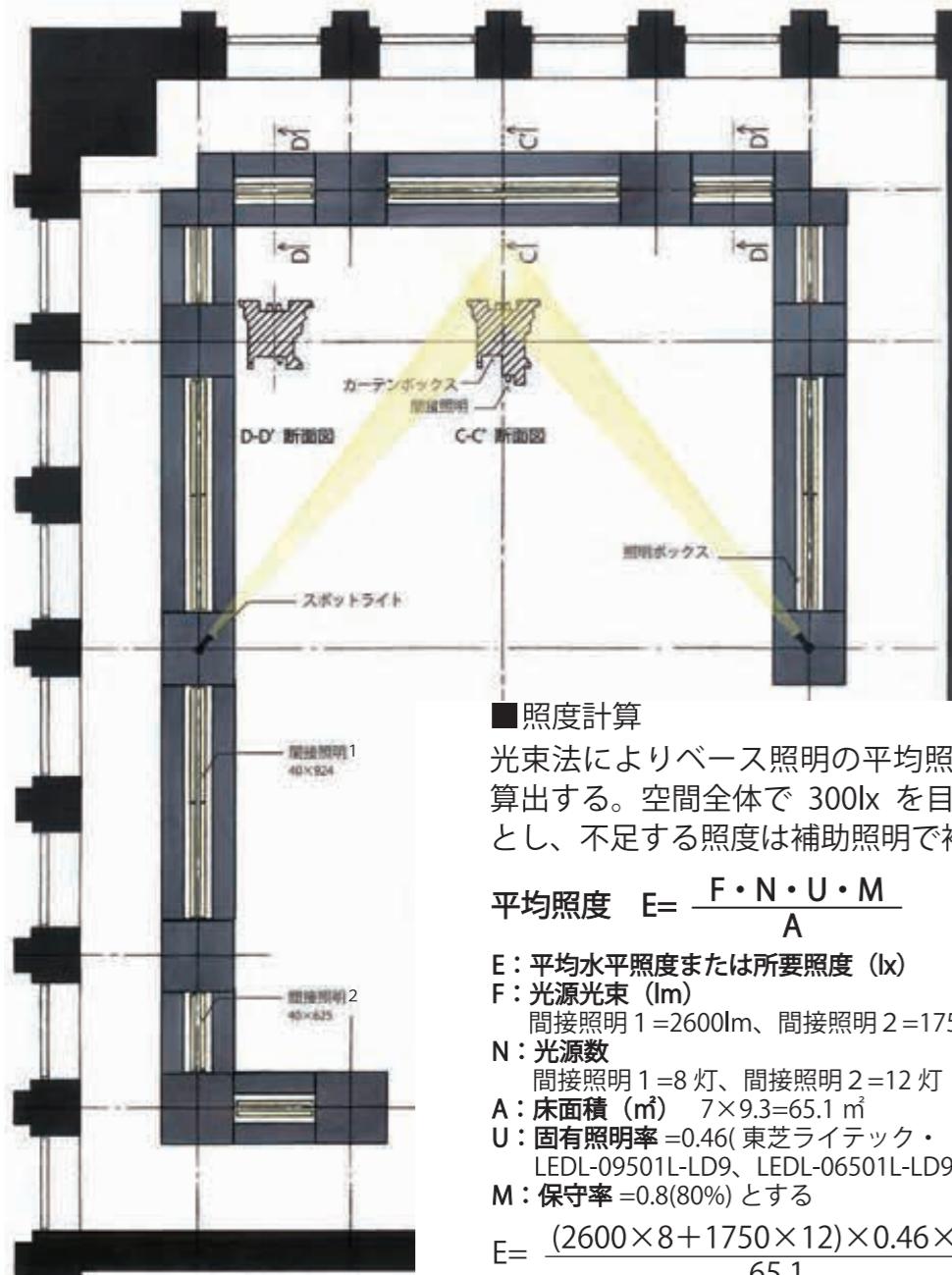
照明ボックス：スチール製 FE 塗装（白色）

ドレープ・ケースメント：ベルベット生地
レーヨン 100%

照明器具：テルマート鋳込みガラス+真鍮金具

家具木部：ナラ材練付 UC 塗装、天板：ガラス

張地：ベルベット生地 レーヨン 100%



梁伏図 1:30

■ 照度計算

光束法によりベース照明の平均照度を算出する。空間全体で 300lx を目標値とし、不足する照度は補助照明で補う。

$$\text{平均照度 } E = \frac{F \cdot N \cdot U \cdot M}{A}$$

E: 平均水平照度または所要照度 (lx)

F: 光源光束 (Imaging Beam)

間接照明 1=2600lm、間接照明 2=1750lm
N:光源数

N:光源
明暗

△: 床面積 (m^2) 7 × 0.3 = 6.51 m^2

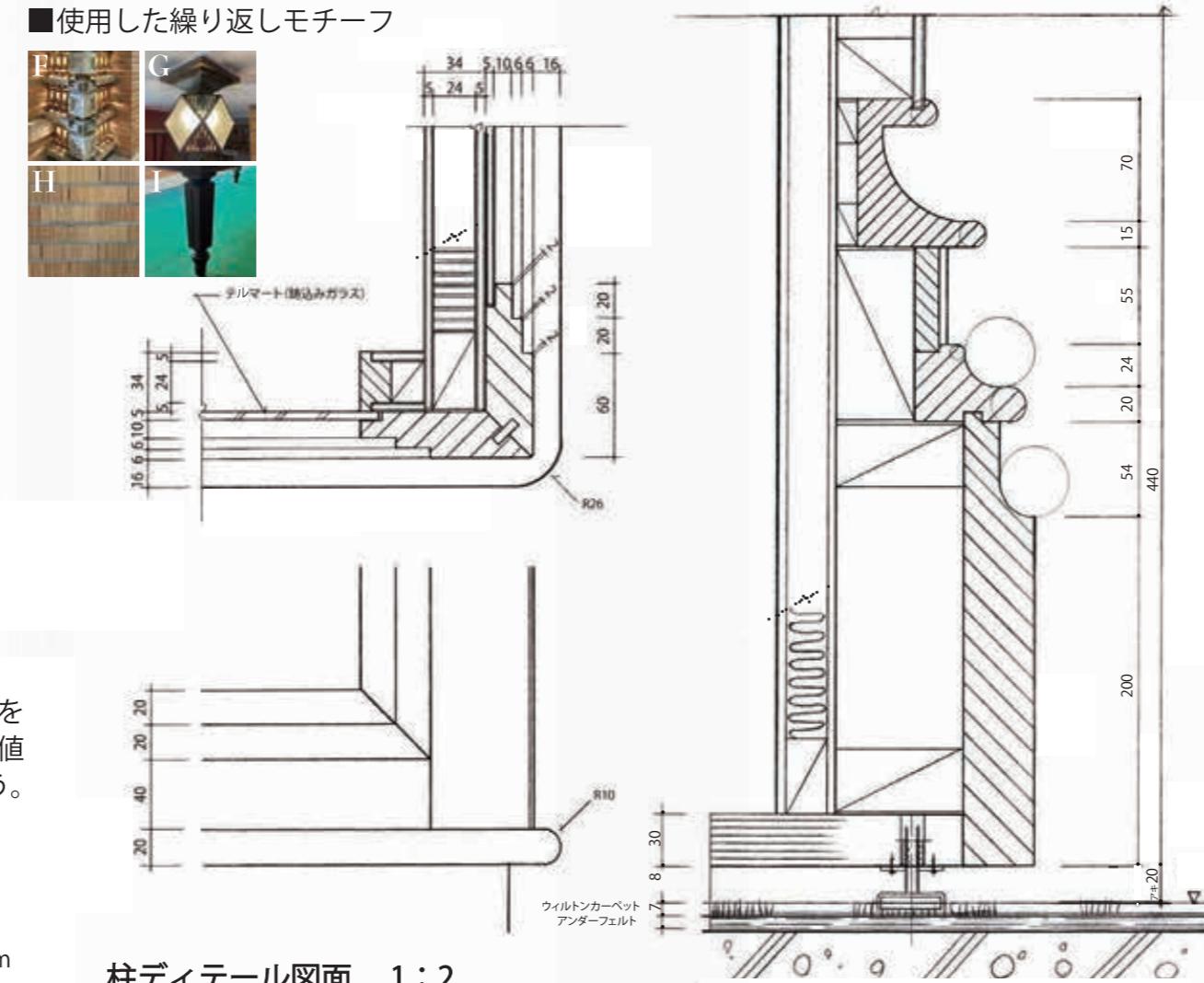
II: 固有照度率 = 0.46(東芝ライテック)

0. 固有照度率 = 0.46 (東芝ライテック LEDI-095011-LD9, LEDI-065011-LD9)

M:保守率=0.8(80%)とする

$$E = \frac{(2600 \times 8 + 1750 \times 12) \times 0.46 \times 0.8}{65.1}$$

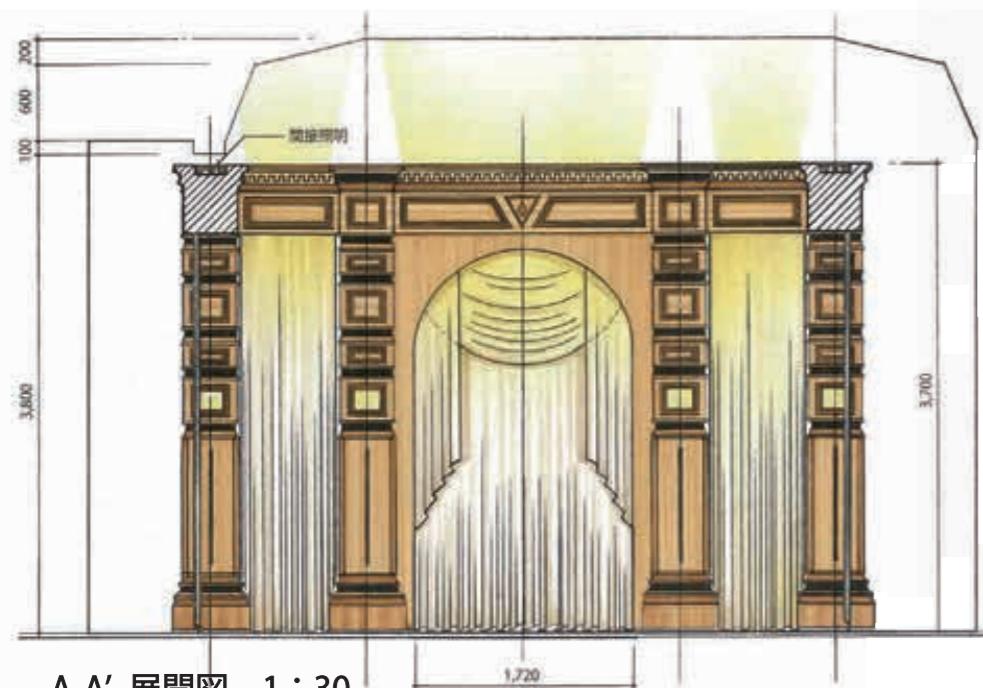
$$E=236.288786 \div 236.291x$$



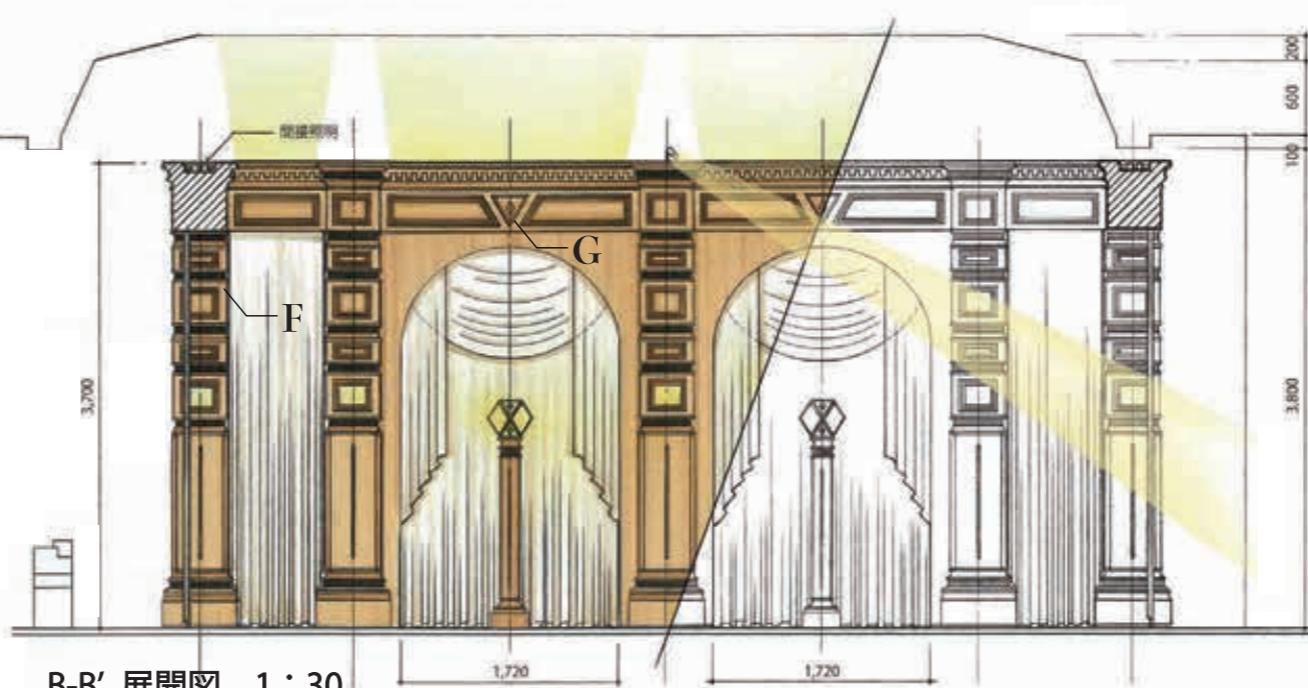
柱ディテール図面 1:2

■ 照明計画

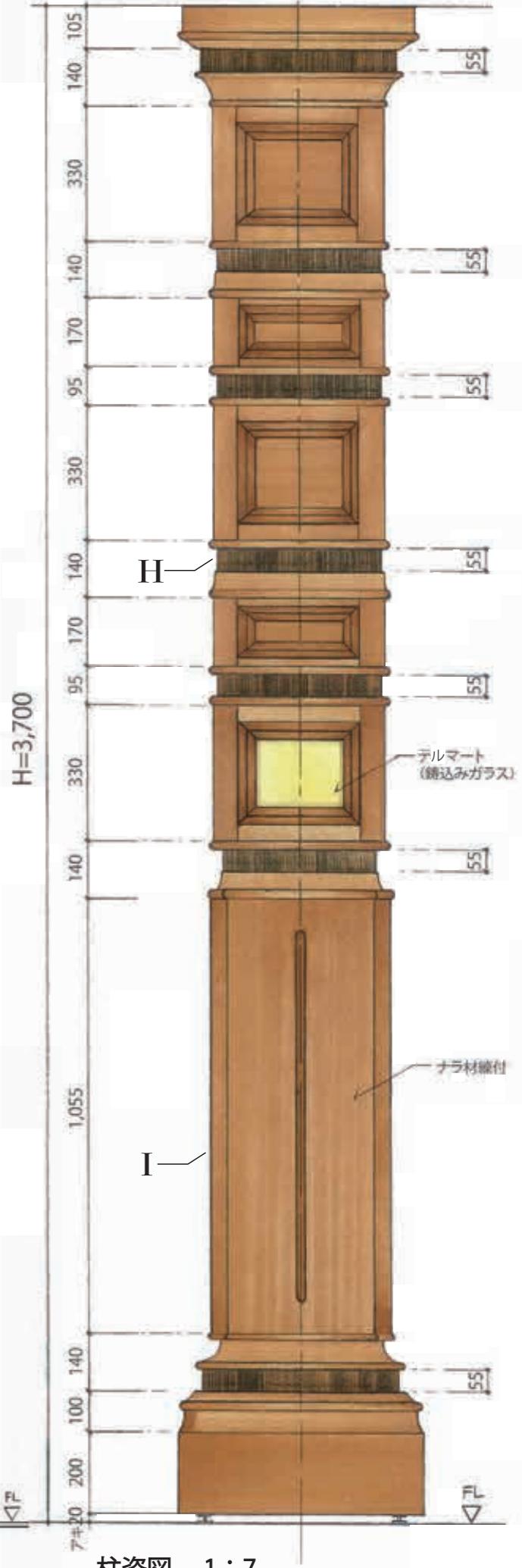
ベース照明を梁上部のアッパーライトとし、天井を高く見せると同時に照度を確保した。ミニコンサートを行う北面を空間の主とするため、北面のみ梁下部にも間接照明を設置した。また、より演出性を高めるため、基準線上の柱上部に左右対称にスポットライトを設置した。フロアスタンドや柱の内蔵ライトを補助照明として照度を補った。



A-A' 展開図 1:30

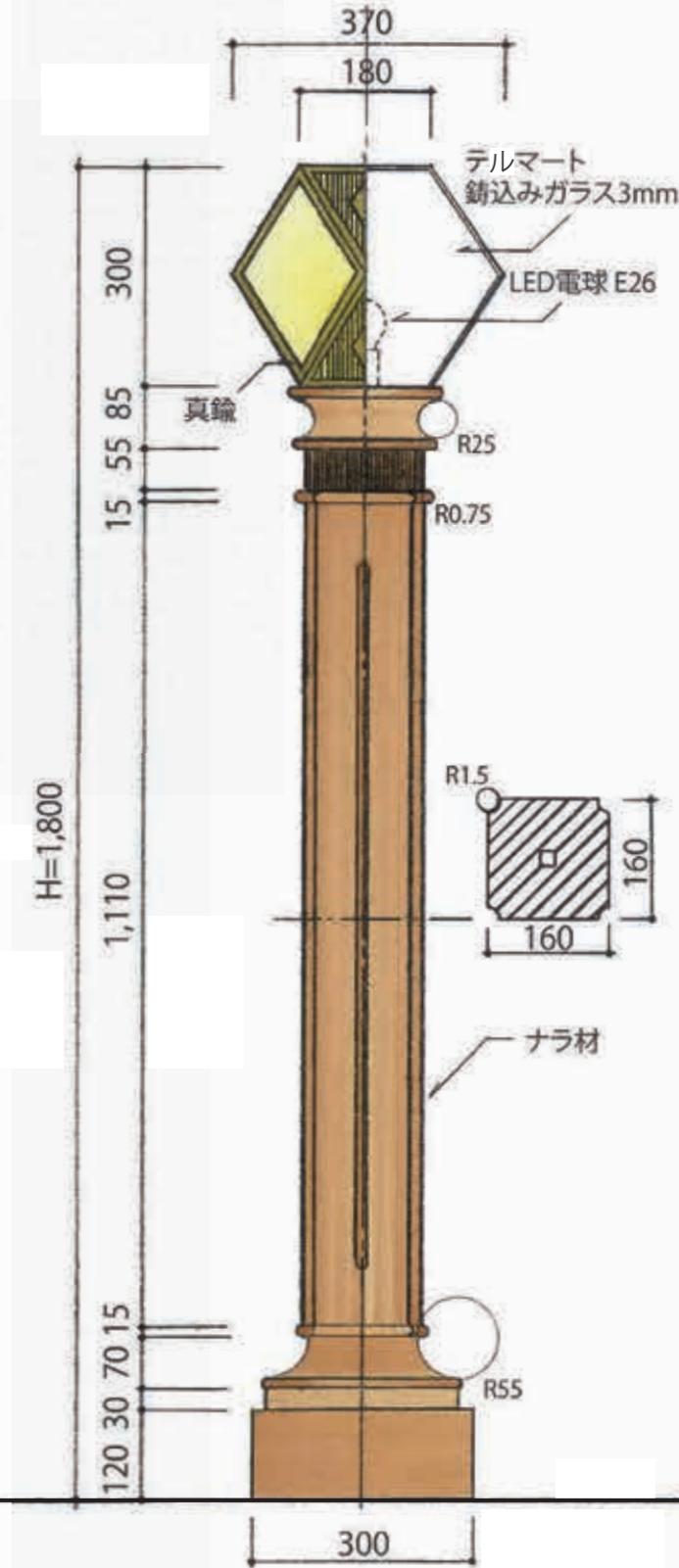
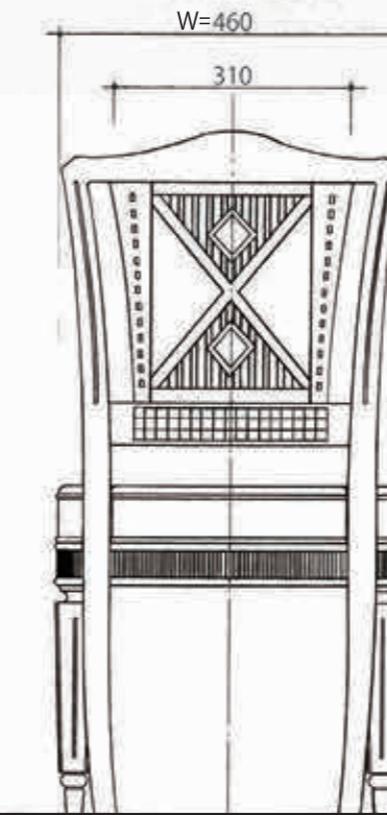
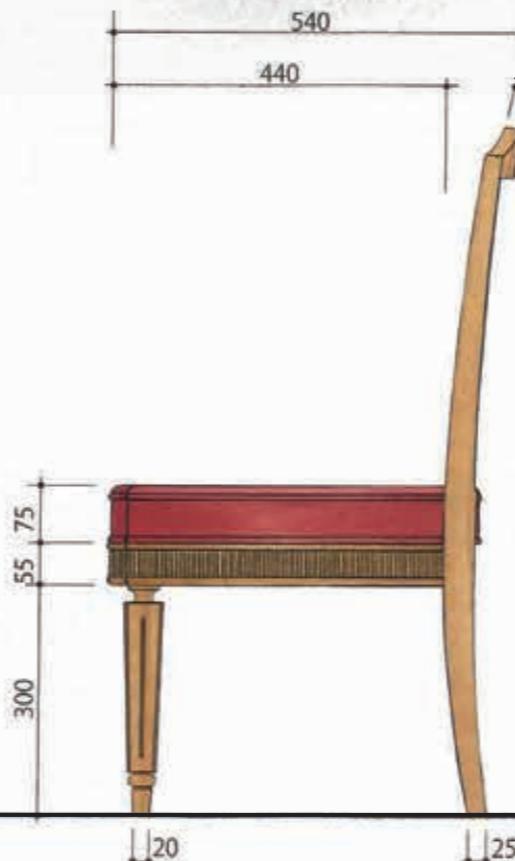
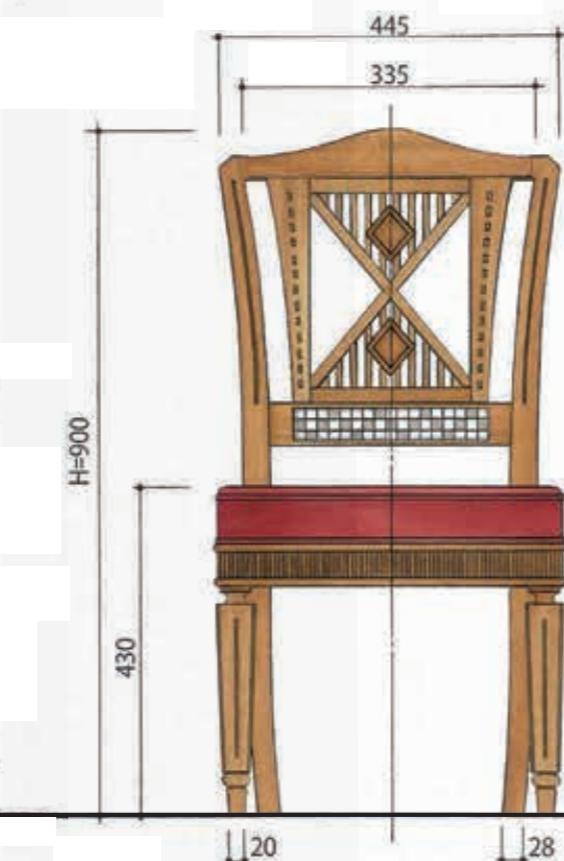
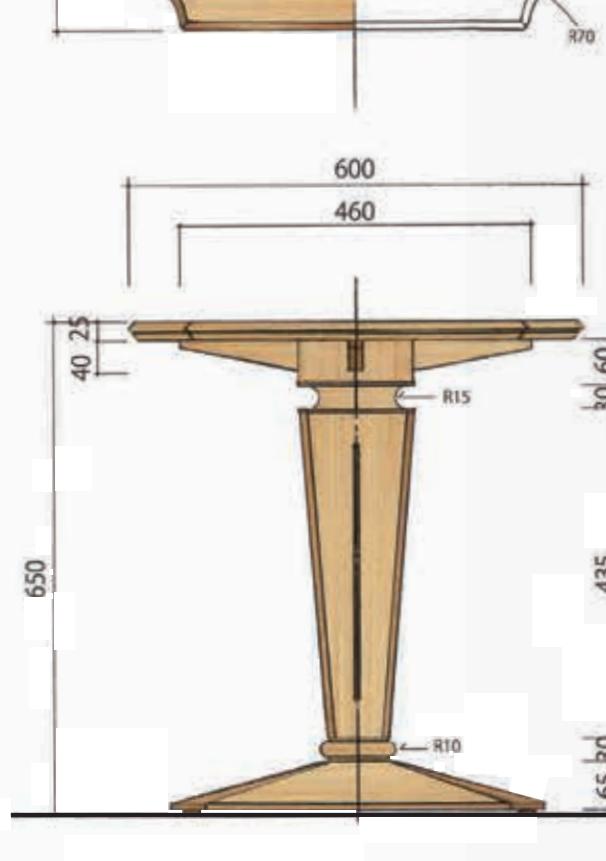
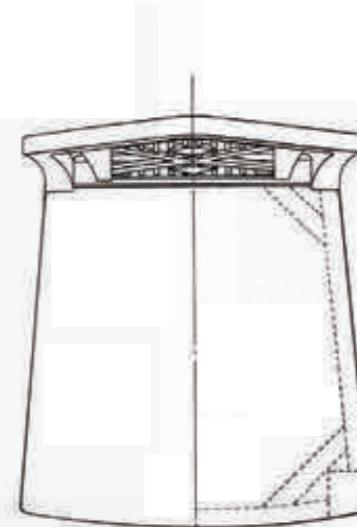
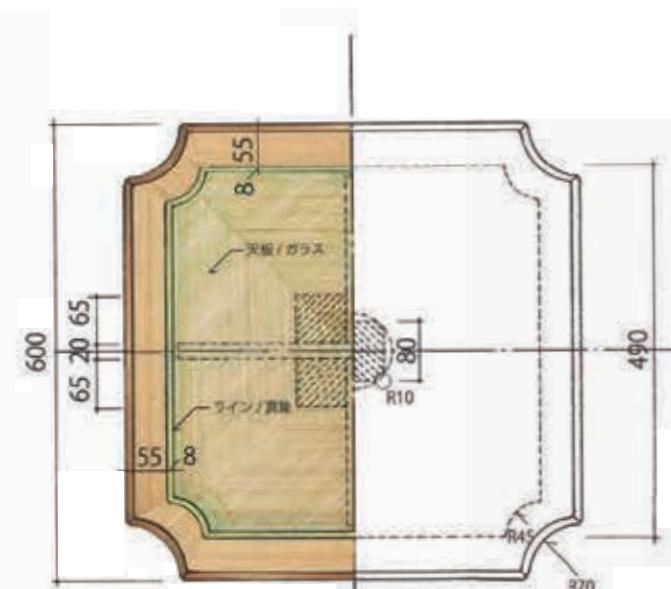


B-B' 展開図 1:30



柱姿図 1:7

研究②インテリアエレメントの設計

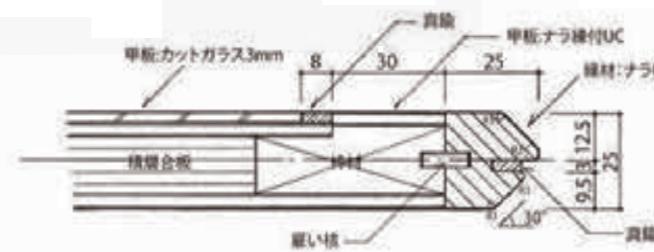


テーブル二面図 1:5

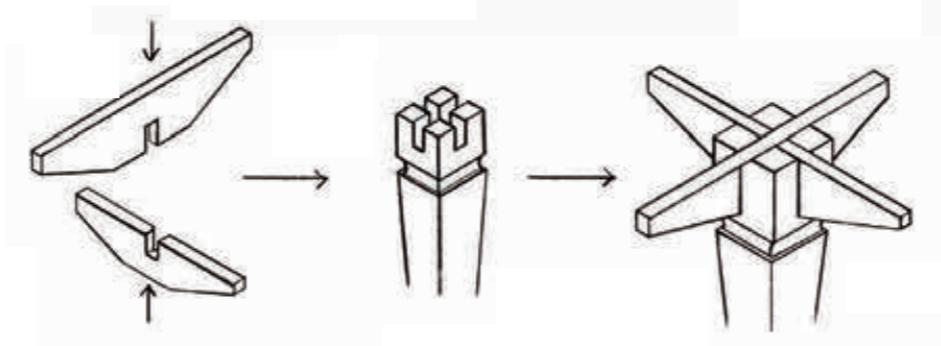
椅子四面図 1:5

■椅子デザインとの関連性

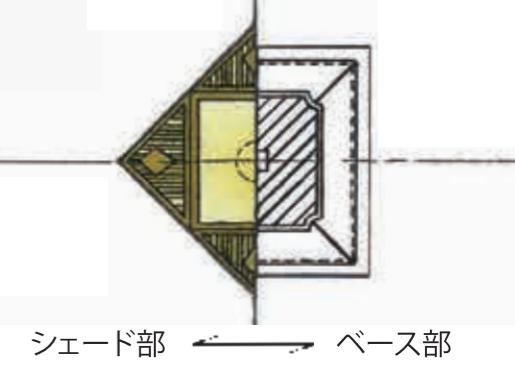
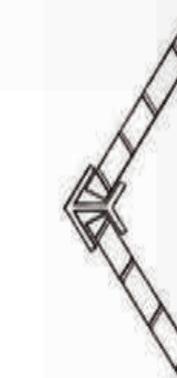
テーブル、フロアスタンドデザインには、椅子の脚部のモチーフ形状を引用することで形体の連続性を表した。フロアスタンドには椅子の背面デザインにも用いた照明器具モチーフを引用し、旧帝国ホテルのデザインを残しつつも新しいと感じるデザインを目指した。



テーブル端部正面図 1:1



テーブル腕木組立図



ガラス接合部 フロアスタンド二面図 1:5

